

令和2年度 第2回 阪南市市民協働推進委員会 会議録（概要）

名称	令和2年度 第2回 阪南市市民協働推進委員会
開催日時	令和2年12月16日（水） 午後6時～
開催場所	阪南市役所 3階全員協議会室
出席者	【推進委員】吉田委員長、有田副委員長、森本委員、坂上委員、井澤委員、小菅委員、田邊委員、吉永委員 8人出席 【事務局】地域まちづくり支援課 川口課長代理、岩下総括主事、枇榔主事
傍聴人数	0人
議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度 市民協働事業提案制度のプレゼンテーション結果報告について</li> <li>協働事業の評価シートの見直しについて</li> <li>その他</li> </ul> 令和3年度 阪南市市民協働事業提案制度の事業報告会に向けての事業進捗状況について
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料1-1 令和2年度 市民協働事業提案制度のプレゼンテーション結果報告について</li> <li>資料1-2 令和2年度市民協働事業提案制度における成案化に向けた協議に進める事業の選定についての提言</li> <li>資料2-1 評価シート（現在使用）</li> <li>資料2-2 評価シート（案）</li> <li>参考資料 評価シート（他市使用）</li> <li>市民協働推進委員名簿</li> </ul>
要旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度 市民協働事業提案制度のプレゼンテーション結果報告について、資料1-1・1-2に基づき、事務局より説明。</li> <li>協働事業の評価シートの見直しについて、資料2-1・2-2・参考資料に基づき、事務局より説明。</li> <li>その他案件として、令和3年度 阪南市市民協働事業提案制度の事業報告会に向けての進捗状況について説明し、報告会中止に関する承認を要する。</li> </ul>
	<p>【令和2年度 市民協働事業提案制度のプレゼンテーション結果報告について】</p> <p>事務局 令和2年度 市民協働事業提案制度のプレゼンテーション結果について、資料1-1・1-2に基づき、概要を説明。 （推進委員からの意見、質疑・応答）</p> <p>委員長 今回は「コンペ」形式にて行い、2団体ともそれぞれテイストが違っていた。惜しくも合同会社B-RAYは不選定という形になったが、悪かったという訳ではなく、審査委員の中には、合同会社B-RAYの方が良いというようなご意見もあった。しかし、今後の高齢化や若者がもっと頑張ってもらいたいといったことなどを踏まえ、泉州電波発信協会の「スタッフにもできるだけ地元の若者を巻き込んで行う」といった点など、総合的に評価され、採択されたという形になっている。</p> <p>副委員長 事務局からも説明があった通り、市設定テーマに対して2団体から応募があったということは、市民協働を進めていくうえでは良かったと思っている。また、映像・放送分野というところは、今まで協働提案ではなかった新しい分野だったので、それも良かった点である。阪南市にこういう団体がいて、こういう活動をされているということを知る機会にもなり、とても良かったと思う。 採択するとき考えたことは、行政と市民団体との協働とは何かということと、やはり行政ができないことを専門性が高い団体がどういう風にカバーしながら一緒にやってくれるかという観点で審査をすることができ、良い機会になったと思う。また、このようにまとめたものを発信することで、市内や色々な市民の方たちに市民協働について考えてもらうものとしてとても良かった。</p> <p>委員長 何年か前にあまちゃんという番組があり、そのまちがブレイクしたきっかけが、ネットで情報発信して注目されたところからまちが盛り上がり、海女さんが注目されたというようなドラマチックなストーリーだったが、そういうようなこともひょっとしたらありうるかもしれないという、わくわくするようなものである。そのような中でもコンテンツというのは、今後大切になってくると思うので、その中で、今回の提案団体は非常にポテンシャルがあるのではないかなと思う。</p> <p>【協働事業の評価シートの見直しについて】</p> <p>事務局 協働事業の評価シートの見直しについて、資料2-1・2-2に基づき、概要を説明。 （推進委員からの意見、質疑・応答）</p> <p>委員長 評価シート作成にあたり、事前に副委員長より細かなご意見をいただいたが、そのポイントやねらい・趣旨、追加コメントなどあれば。</p> <p>副委員長 今までは初年度と継続という点での区別がなかったことや評価の視点が少し整理できていなかったところがあったので、特に評価の視点を中心に修正案を提案させていただいた。事業を実施する前にきちんと確認しておかないといけないこと、実施中、実施終了後という視点としたが、事業評価ではなく協働事業の評価なので、事業を評価するだけの視点とは違うという点を見ていただければと思う。なお、1点見落としとしていた部分があり、資料2-2事業評価シート変更（案）の1ページ目の協働の形態のところだが、協働というのは一緒に何かをして、それぞれの強み・弱みを補完しながら行うものなので、記載のある情報交換・情報提供は当然のこと、後援は名義の付与だけであり、役割分担というようなこともないだろうし、事業協力というのは何のことか分かりにくいし、共催というのはイベントのことで、なってしまっているので、この中であえて形態を書くとするなら、委託もしくは実行委員会形式、その他くらいしかないので、変えた方が良い。</p>

委員長	協働の形態に関して、具体的な形でチェックを入れる欄があるが、それが協働というのにそぐわないものが入っているのではないかなという話だが、参考資料で1番近いのが川越市の評価シートで、①～⑧まで具体的な手法として挙げられている。他の府中市・草津市の評価シートではそういうものはない。
委員	事業をするということになると、やはり効果というものはどうしても見出す必要があり、期待もしている。事業の課題というと、課題があるからこの協働事業で解決に向かっていこうという行政と団体との思いで事業が実施されるものと思っている。その結果の判断というのがなかなか難しいと思うのだが、評価の表を見ると、行政・団体ということをしている。委託した側の行政が、委託先の団体がどういう風なことを行ったかについてお互いが評価し合っているのだが、やはり第三者（参加者）がどういう風に捉えたかということをして2ページの1.（5）に参加した人たちの反応などを書いているが、この辺をもう少し聞き取れるような、判断できるような形にされたらどうかと思う。行政・団体以外の意見を聞くことによって、新しい試みや方向が出てくるような気がする。
委員長	それと、1ページの1.（3）事業費の欄に、費目を記入と書かれているが、決算書の提出を求めれば、その中に費目などの記載もあり、分かると思うのだが。 「第三者の評価・利用者等の評価や声を反映させた項目を入れたらどうか。」ということと、「費目について」ということだが、つくりとして、前提としては、結果評価もさることながら、自己セルフチェックシートのような感じがだいぶ強まったと思う。1つは提案団体と行政担当課とが話し合いながらこういうものにしていこうかというときの1つの指標という側面と、我々のところでこの評価シートを用いて客観評価するという2つの側面がある。そういう意味で言うと、そこはミックスされており、実践者が振り返りの評価をするということ、その実践者でない第三者の我々評価者が評価するという部分との分けたい部分の使い分けが必要かと思うが、1ページ・2ページが評価する際にどういうことでどういう風になってきたのかという客観事実の情報・データを確認するという部分であり、3ページ・4ページがそれを受けて実際の協働をしてどうだったのかということの評価するという組み立てだと思う。
委員	協働の形態だが、市の方がどれだけ関わっているかということでは形態は変わってくるのではないかなと思う。ほとんど任せっきり、何かあれば相談するというものもある。費用的なものもあるが、これからするインターネットテレビも市の秘書広報課が半々くらいあるいはそれに近いくらい関わっても良いのではと思う。そういう形態として、市の関わり具合として、色々あっても良いと思う。
委員	2ページの事業の内容のところ、名称・日時・場所・参加人数・内容・収益と書いているが、例えば今回採用している阪南TVの参加人数というのはどういう風な表し方にしようとしているか。
事務局	阪南TVの参加人数として考えられるのは、視聴回数、見られた方のところの部分客観的な数字として見ることも考えられる。あるいは、実際に出演者の人数など、客観的に数字として表れるようなところを持ってこないか考えている。
委員長	誰が対象者なのか、誰がいったい参加者で当事者なのかは事業によってかなり悩ましく、場合によっては分かりにくいということもたくさん出てくるかなと思う。いったいどういうことをしてもらったのか、どういう形でしたのかという事実関係をまず明らかにしないことには、評価もできない。それを受けて、具体的に我々評価委員会の方で、評価を行う。
委員	2ページ1.（4）の事業の内容として①～⑥まで項目があるが、⑦収益⑧その他の項目を入れることができればと思う。
委員	3ページの2. 協働事業の評価について、評価点の基準として、大変よくできたの5点からできなかったの1点とあるが、つけにくいところがある。単にできたら5点をつけてしまうということもある。参考資料の川越市の評価点も5点ばかりで、こういう展開になる恐れもある。そのため、具体的にどういう基準であれば5点で、4点はどういう基準というような、そういうところがあればつけやすく、評価がしやすいのではないかなと思う。そのようなものを書き加えた方が、同じような基準で評価されるのではないかなと思う。
委員	評価シートの提起した視点での事業評価というのは、全ての事業が終わってから提出という形になるのか。
事務局	1年の事業を終えた後に評価をしていただくシートとなっている。1年終えた事業であったり、その他2年3年4年と継続していただいているのも1年の振り返りとして1年ごとに評価していただくシートとなっている。
委員	今回採択した事業については、何年か契約するということが。50万円のお金というのは、毎年払うのか。
事務局	阪南TVに関しては、まず、令和3年度を50万円で事業を行うということで、次の部分に関しては、現状でいくのかまだ未確定というのが事実である。実際にこの1年やってみてのところの部分もあり、予算の部分もそのまま50万円でできるのかということもある。通常の場合なら、そのまま委託という形で継続するパターンが多いが、阪南TVについても一度担当課と提案者と事業の振り返りを含めたうえで判断になるかなと思う。後程報告するが、例えば去年採択の舞地区自主防災会や以前から協働事業として行っている事業についてもこの評価シートで評価するものと考えている。

委員長 全体のつくりだが、協働なので、まず、単なる委託事業ではない。形はいくつかあるが、行政（役所）の課と実施される団体とが何らかの形で一緒にやっていくというのが大前提であり、その部分がきちんとできているかどうかというのと、事業全体としての成功の度合いやきちんとお金の使い方ができているかなどその辺をいくつかの角度から評価をする。その評価をするのが誰なのかという時に、まず1つは、事業に携わる団体と役所の担当課とが一緒に話し合いながら、自分達のやろうとしていたことと、結果どうだったのかということの振り返りのセルフチェックシートのような部分が1つとしてある。もう1つは、審査部会というものがあるので、事業をしていない第三者として、客観的に評価するという部分。そういう意味では、まず、自分達で担当された団体と担当課の方で一度書いてもらい、それを見て我々がもう一度点数を入れるというという形になると思う。基本的にセルフチェックシートという自分達の振り返りの部分が大幅に追加になった部分で、「やってみてどうでしたか」ということを問う部分がある。しかし、使い分けが難しい部分が出てきてしまう可能性もある。

副委員長 いくつか論点が出てきたが、まずは「協働の形態」というところで、副委員長よりご指摘があり、そもそも協働をするということから出発しているのに、情報交換や後援というのは協働には該当しないのではないかと。ということがあったが、この件に関してはどうか。事業協力というのはどこまでのことをいうのか分かりづらく、後援も単なる協力で、団体がするのを少し名前だけ載せて、これでもって協働です。となってもいいかなものかと問われるところでもある。協働の形態の欄についてはどうか。

副委員長 皆様のご意見も聞きたいと思ったのは、やはりまだ阪南市にとって協働というのが、スタートして少し年数は立ったが、行政職員の意識啓発みたいなのが、もちろん市民団体含めあるように思う。

委員長 全て5をつけるのではないかとのご意見は、これまでの3段階評価でもほとんどが3をつけていたようなところがあり、第三者評価が必要ではないかということにも関連するが、第三者・審査部会が評価して、ダメだったら来年度辞めさせることができるかということ、そういうものでもない。むしろ、双方が話し合い、より良い形に進めてもらうということがあり、5をつけているうちの5の評価は悪いというものではないと思うので、そこは自分達の自己評価意識というものに任せるしかないかと思う。

委員長が言われた形態のところは、もう1つの考え方としてはなしにする。ここを書くことにより、協働はこんなものだということをお互いに知られると、先程言われたみたいにめったに来ず、何かするだけでお金を出してくれるものが協働だと思うとお互いに良くないので、どういう風に工夫したか、役割分担はどうしたかということが大事なので、そこで実行委員会形式でやりましたとかいうことを工夫で書いていただければ良いので、ここを熱心にするという案も1つで、もし書くとしたら、委託か実行委員会かその他の3つくらいしかないのであると思う。

委員長 協働の形態のところを、具体的な項目を書かずに自由に記載してもらおう形にするのか、協働委託や実行委員会等にしておき、その他のところでもう少し柔軟に書けるようにしておくのか。何もなしだと、どう書いて良いのか分からないということにもなりかねないので、共催、後援は団体がしていることに対して少し乗っかるだけといったイメージがあるのでいいと思う。

委員 事業の内容にもよる。前に関わっていたものがあるが、今関わっているのはもう少し市が関わっているし、段階も色々あり、市の方も職員の意識を含めてだんだん良い方向に変化しているように思う。やる事業にもよるし、協働とはいっても段階は色々あると思うので、2つか3つ書き、それ以外の形態は、その他に書いてもらうのも良いかと思う。

委員長 実際に形の上ではそうだが、中身ではもう少し色々なことがあるということかもしれないが、あまり後援や共催などといったことを出しておいて、それで協働ですということをお互いに助長するのも良くないので、協働委託、実行委員会・協議会、その他くらいにしておき、どれを書いたら良いか分からないといった場合は、その他の欄に書いてもらうという形にしていきたいと思います。

事務局 1つ検討してもらいたいのは、川越市の評価シートの協働の形態の中にも記載がある、補助・助成だが、今現状ではそういった形のものはないのですが、今後そういった形での形態も事業補助といった部分でありえるのではないかとと思うので、もし加筆できるのならば、加筆したい。

副委員長 それはやめた方が良く思う。それはお金の出方が補助金なのか助成金なのかということでお金だけ出すということが協働だと思われたら困るので。私はその提案は1番最初にすべきではないと思う。みなさんが入れるべきであるというのなら別だが。

委員長 お金の出方の部分のところはどこか。

副委員長 資料2-2評価シートの1ページの(3)事業費。先ほど皆様のご意見にもあったように、2ページの(4)のところも①～⑥まで例えばで入れているが、本当は入れたくない。(3)事業費の補助金、委託費も入れずに自由記述にしてもらった方が良く思うが、そうすると具体的なことをなかなか書いてくれなくて、長々とした文章になり、実際に何を、どんなスケールだったのかや事業の効果を図る時の具体的な数値が何もないというのは良くないと思ったので、ここを書いている。事業費のところも補助、委託だけではない方が良くとももちろん思っているのだが、今始まった新しい制度を普及させるために、より分かりやすくするために具体的なことを書いている。その辺は例えばといった書き方などをしたら良いのかもしれないと思う。

委員長 今回の副委員長のご意見は、事務局として、補助・助成というのは、形式的に言うと、分かりやすい形で、出てきた時にここは入れておいた方がありがたいという話だったが、(3)に事業費の欄があり、そこに書けるということもあり、お金を出すことをもって協働ということになってしまうことも危惧しますというご意見。具体的な形が出ている方が分かりやすいといえれば分かりやすいが、それによる弊害もある。

委員 これは見方によれば、回答者に親切なやり方だと思う。というのは、慣れない、初めてする、数をこなしていない人が何を書いたら良いのかということに対するちょっとしたアドバイスという風に受け止めれば、書いていても悪いとは思わない。その他事項を設けていけば、それはこちらの方ですねとかこういうことを書いてくださいというような話し合いをすれば良いので、選びなさいではなく、親切といえれば親切であると思う。

委員長 広い市民の方がこういう協働事業に進まれるようにした方が良く、書きながら協働のあり方や様々なことを学んでいくプロセスも必要なので、書きやすい・分かりやすい方が良い。ただ、そこに安易な逃げ道というか、協働と言うのを形式的なものに流してしまわない工夫が必要といった副委員長のご意見がありました。まず、協働の形態については、お金の形態に関しては(3)のところがあるので、やはり協働委託、実行委員会・協議会、その他くらいにしておき、どう書けば良いか分からないものに関しては、その他のところに書いてもらうということにしておきましょう。事業費の方は、費目を書いていただき、何のお金かという形・出し方が見えるようにしておきましょう。(4)は①～⑥までであり、本当は自由記述にしてきちんと書いてもらったら良いのだが、目安のポイントとして入れておいた方が、書く場合にもあるいは後で我々が見る場合にも分かりやすく、良いという話であった。その他は、やはり言いたいことも多いと思うので、入れておいた方が良く、収益はどうか。収益にそぐわない事業も多いと思う。逆に収益が出るのが事業と想定しているというのはあまりないかもしれないが。一体協働事業として何が出てくるのかははっきりと分かっていないが、役所と一緒にすることということで、なかなか収益が伴うような事業というのは普通ならあまり考えられないが。その他にしておきますか。

事務局 数年前から実施している図書館とリサイクルブックつながりの、図書館の除籍本を団体が受け取り、それを格安、10円、30円、50円、100円というような低価格でサラダホールの1区画を使って販売を行っている事業があるので、これに関しては、一定収益という形での金額はあがってくるかと思うので、これも先程、副委員長がおっしゃられたように、書き方の目安として、1つ掲げていても、ないところはないという形で書かれ、あるところはきちり書かれるだろうと思うので、あってもおかしくはないと思う。

委員長 収益も出るものもあるので、入れておきましょう。問い合わせが来た場合は、ないところはないで良いということで、その他は想定外のものが出てくる可能性があるがあるので、入れておいた方が良く、ということで入れておきましょう。評価シートのつくりは他のサンプルのつくりも、自己評価シートの使い方になっている。それを事業者である団体と一緒に協働する担当課とが協議して書く。事実部分に関しては1ページ目2ページ目と、割と書きやすくなっている。問題は3ページ目も自分達で点数を入れてもらうという使い方になるかと思う。4ページ目の協働して良かったこと、課題だと感じたことは事業者・やった人たちに書いてもらうと思う。一番最後は、話し合い、記載してくださいですが、つくりとしては事業者、どちらかと言えば、NPOや団体の方が基本書いて、できたら担当課の方と協議し、一緒に振り返りをしてくださいというような感じのつくりかと思う。

副委員長 事業評価シートではなく、協働評価と申し上げたのは、委員がおっしゃったように例えば事業の対象者がどうだったかということになると事業評価になると思い、あえて省いている。例えばその事業には想定した引きこもりの当事者が参加しましたかという風に聞くと、事業評価になってしまうので、協働事業の視点ではそこまで入れるとものごくたくさんになるので、あえてここの中でいうと、3ページの(1)8番の「想定した目標は達成できましたか」というところで想定した人たちが対象として参加したり、あるいは11番にあるように、「当事者、関係者を巻き込めたか」というところで評価するというようにさせていただいた。第三者評価が良いのではないかとということについては、審査部会の役割を見直したらどうかと思う。この協働事業提案制度があがったときに、これは協働に進めるかどうかをプレゼンテーションを聞いて判断するが、それと同じように事業報告会も公開でしているのだから、それを審査部会やこの委員会が判断して何らかの評価をするということで、第三者評価的な役割を果たしたらどうかとご意見を聞いていて思った。この審査部会のあり方については、事務局に投げかけた提起です。

委員 4ページの(2)(3)に記入してもらうところを、先ほどのような話を聞いた中で、もう少し詳しく説明や感想、課題に対してこのようなことをやってもらい、このような感じで皆さんが感じた、そして結果的にはこういう風になりましたというのを、言葉としてここで詳しく書いてもらえればそれで分かるのではないかと思う。

委員 先程の委員の意見について、4ページの団体にとって・行政にとって・市民にとってというところは良いと思うが、右側の欄の線はいらないのではないか。右側の区切りがなければ、詳しく書こうと思えば詳しく書ける。

委員 実施団体は、行政にとって・市民にとって全部を書くというものか。

委員長 自分達でしたことは、自分たちにとって、市民にとっても行政にとっても良かったでしょうし、それが当たっているかどうかは審査部会がそこをジャッジするというので、まずは自分たち自身の振り返り、セルフチェックである。

委員	実施団体が自分たちが感じたことを書けば良いのか。
委員長	それぞれの立場によって評価は違ってもいいが、評価するのはまずこの事業に携わる人達、携わるというのは、この場合協働なので、NPOや役所の担当部署だが、それが事後点検になる。もう一つはそれを評価するという第三者の立場として評価する審査部会で、もう一つは、利用者や市民、住民などの立場での評価である。評価主体は三様ありうるわけだが、変更（案）の方は事業を実施する主体を中心に作られた協働のあり方、協働をこれからもっと良くしていくために協働としてどうなのかということのを反省してもらい、見つめ直してもらうための評価シートとなっている。なので、自分達のやったことを振り返ってもらう、協働をして良かったことはどんなことでしたか、協働をして課題だと思ったことはどんなことでしたか。ということ。 ただ、どういう事業名で、どれだけの期間どういう形でどれだけのお金を使ったのかという事実確認のシートが1・2枚目、その事実を受けて、3枚目のところでそれは各項目としてどういう点数になるか。これは自分達でセルフチェックでもらうという使い方もできるし、審査部会として各項目に評価をするために、成績を教師がつけるような形でつけるという使い方も3枚目のシートが使える。4枚目になると、やはり事業者のセルフチェックシートとしての書き方になっている。だから、団体と事業担当者とか話し合って記載するというのはまさにそのことである。4番目は審査部会が全然書くところではないが、審査部会としての客観評価としてこれを書いてみるということではできないかもしれない。
委員	私は、とてもよくできたシートだと感じる。1つ、協働の形態のところで副委員長がおっしゃったところだけが気になっていたので、そこが整理されれば、よくできたシートではないかと思っている。 協働の形態で言うと、先程おっしゃった、協働委託、実行委員会・協議会、その他で一度スタートをしてみて、年数がたっていくと、その他のところに別の色んな項目が出てきた時にそれを形態に入れるかどうかの今後議論をしていけば、より形態もまた、細分化されていくのではないかと考えている。他のところも一度試してみてもいいかもしれない。また変えていけばいいのではないかと考えており、すごく良いシートかなと個人的には思う。
委員長	皆さんもだいたいそういう形だと思うので、細かなところでは、協働の形態を先程確認させていただいたように、協働というものに当てはまらないようなものも列記されているので、協働委託、実行委員会、その他くらいにしておいて、やっていくうちに明らかに項目として挙げた方が良さそうなものが出てきたら、それを追加していくというような形でいきましょう。全体としては、バージョンアップして、情報量も多くなっているし、書きやすくなっているし、基本的にはこれを使っていくということですね。後はそれを審査部会として使う時の使い方の工夫はまた少しずつ運営上の工夫でやっていくということですね。やってみないと分からないところもありますが、前よりは親切に書けるようにもなっているので、質問が来たら事務局が対応していただき、こちらでフィードバックして、改善すべきところはバージョンアップしていくということですね。
【その他】	
事務局	令和元年度の市民協働事業提案制度で採択されたところの部分について、ご相談、お諮りさせていただけたらと思っている。令和元年度は、舞地区自主防災会と阪南コットンワークスの2団体が提言の中にもあるように、成案化事業という形になっている。そのうち、阪南コットンワークスの方が、実は現在のコロナ禍において、本来であれば事業名称にもあるとおり、円卓会議ということで、関係団体と会議を行って事業を進めていきたいといった簡単に言うとそのような提案内容であったが、コロナ禍の中で、円卓会議の方が実施できていないということもあり、また、今の現状そういったことを考えると、今年度実質的には円卓会議を開催するのは非常に難しいというようなお話がありました。 本来であれば、今年度中に事業実施した内容の報告会を行うが、阪南コットンワークスについては、そのような事情があり、今年度はなかなか報告会をするのは難しい、いわゆる次年度以降に報告会を行う形になると思うが、そういった形でお取り扱いしても良いかお諮りしたい。
(推進委員からの意見、質疑・応答)	
委員長	いかがでしょうか。今年は仕方ないですね。そういう中でも工夫されながら色々形を変えながら一生懸命実行・実現されているところもあるが、そういう形で進めていただきましょう。
事務局	形式的なことはなにか手続き的なことはあるのか。 今現在事務局で考えているのが、提案者の阪南コットンワークスから阪南市長宛にいわゆる休止届、休止理由等を記載していただいた届出を出していただいて、内容を見たうえで、市長名で阪南コットンワークス宛に承認という形の通知書を出すように考えている。その中で、報告会の部分についても、令和3年度の報告会で報告するようになるとかそういったところの部分は記載してもらうように考えている。
—承認—	
委員長	その他ございますか。
事務局	本日先程ご議論・協議いただきました評価シートですが、最終的な部分につきましては、また委員長と副委員長とご相談させていただき、最終案の方を委員へ提示させていただき、また一定期間を設けさせていただき、ご意見等頂戴する形でよろしいか。
—異議なし—	
委員長	それでは、本日予定しておりました案件は全て終了しました。 ありがとうございました。